



愛知電機技報発刊によせて

中部電力株式会社 取締役社長 松永亀三郎

今般、株式会社愛知電機工作所におかれましては、長年の懸案であった「愛知電機技報」を発刊されることとなり、心からお喜び申し上げます。

あらためて申し上げるまでもなく、貴社は長年にわたり、弊社に対して、変圧器を始めとする電力諸機器の製造、販売をとおして電力の安定供給に多大の貢献をされてきましたが、これは貴社の技術力が大きな支えとなっていることは論を待ちません。

思えば、貴社は昭和17年に変圧器修理会社として設立されて以来、幾多の研究、開発、技術革新を図られ、変圧器部門においては超高圧変圧器の生産体制を確立されたほか、他のメーカーに先がけてラジアルコアを採用した低損失形シャントリアクトルの製品化をされました。また特に貴社が開発された襲雷警報装置は、電力供給の万全に大いに役立っております。

一方経営の多角化を図るため、昭和33年に小形モータの製造を開始され、以後多種多様なモータ類を開発生産され、今ではモータ部門を変圧器部門と並ぶ貴社製品の二本柱にまで育てられました。

さらに昭和55年にはシステム開発本部を発足させ、エレクトロニクス関連機器ならびに各種システム機器の開発に力を注ぎ、この部門を貴社製品の第三の柱にすべく企業化の道を求めておられると聞いております。

このような貴社の事業発展の歩みをみると、経営陣の経営努力はもとより、社員各位が事業発展のため技術水準の向上と、新規事業開発になみなみならぬ努力を傾注され、オイルショックによる電力関連企業の低迷をはじめとする幾多の難関を克服し、今日の「技術の愛知電機」として確固たる基盤を築かれてまいりました。

こうした貴社のたゆまぬ努力が、弊社の技術部門の信頼をかちえて、その要請と期待に十分応えてこられたことに対して、深い敬意と謝意を表す次第であります。

さて、ひるがえって今後の社会、経済情勢を展望するとき、昭和60年代は、高度情報化、産業ハイテク化ならびに国際化などが、一層進展し、社会はさらに高度化、複雑化するとともに、価値観も多様化するものと思われま

こうした情勢下にあつて、電力関連事業に対する需要構造や社会的ニーズは大きく変化し、エネルギー産業界における新たな競合と補完の時代が到来しつつあります。また、今後は一般社会においても、産業界においても電力の重要性はさらに高度化された形で増大し、電力の供給信頼度向上に対する社会の要請は一段と高まるものと思われま

したがって、電力関連機器に対する高性能化ならびに高品質化の重要性は、ますます増大しているといえます。一方最近の技術界においては、各種エレクトロニクス関連機器、新素材応用諸機械、ロボット技術など、新しい技術革新が急速に進展しており、貴社に関係のある製品についても、電力ロス率を大幅に減少する変圧器の開発やエレクトロニクスを応用した高性能のモータの開発が進められていると聞いております。

このような技術革新の時代に、貴社が「愛知電機技報」を発刊され、従来にも増して技術力の向上と新製品の開発に力を入れられることは、まことに時宜を得たものと言えま

今回の技報の発刊は、社員の技術革新に対する意欲が増大し、技術的な諸情報の交換が行われ、現場の設計製作技術の向上に役立つとともに社外に対しても、貴社の製品や技術力が紹介されることにもなり、きわめて有意義なものと考えております。

ここで特に現場で技術開発や研究に従事されている研究者や技術者の方々に申し上げたいことは、現代は、技術革新の時代であり、多種多様な新技術や新製品に関する諸情報が出まわり、現場における実用的技術開発の一助になると出番を待っていることです。したがって、こうした技術を実用化、企業化するためには、常に新知識の吸収と実践に心掛け、鋭い観察力と解析力を持って問題点を的確に把握し、自分自身が時代の先取りした新技術の研究開発の一翼を担うとの気概を持って、研究・勉強に努めていただきたいと思います。

最後に、「愛知電機技報」が、貴社の一層の発展に十分寄与することを祈念し、お祝いの言葉といたします。